

豊かな人間性や社会性を育む生徒指導の進め方について

～社会奉仕体験活動を通して～

広島県教育委員会

1 はじめに

今日、暴力行為やいじめ、不登校など児童生徒をめくり様々な問題が発生しており、深刻な社会問題となっています。こうした生徒指導上の諸問題の一因として、「他者への思いやりの不足」や「感情のコントロールができない」ことなどが考えられます。

思いやりや自分の感情をコントロールする自己統制力は、集団や友人関係など、人間関係の中で、人と接することにより身に付けるものです。

このため、児童生徒の健全な成長を図るためには、人、社会、自然などとかかわる直接的な体験を通して、豊かな人間性や社会性を育み、児童生徒のよりよい人格の形成に取り組む必要があります。



特に、「社会奉仕体験活動」は、「誰かのために、したいこと・できること」であり、このような見返りを期待しない体験を通じて、児童生徒が、人の役に立ったという自己有用感や達成したという成就感を感じる中で、他者に対する思いやりや自己肯定感など豊かな人間性と社会性を育むことができます。

各学校においては、発達段階に応じた社会奉仕体験活動などを教育活動として位置づけるなどして、生徒指導上の諸問題の未然防止を図ることが重要です。

2 社会奉仕体験活動について

(1) 社会奉仕体験活動の概念

中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」では、奉仕活動・体験活動を次のように述べています。

個人が能力や経験などを生かし、個人や団体が支え合う、新たな「公共」に寄与する活動、具体的には、「自分の時間を提供し、対価を目的とせず、自分を含め他人や地域、社会のために役立つ活動」を幅広くとらえるとともに、社会性や豊かな人間性を育むという教育的側面に着目し、社会や自然などに積極的にかかわる様々な幅広い活動

(2) 社会奉仕体験活動のとらえ方

前途の答申では、社会奉仕体験活動に係る自発性や無償性の考え方等について次のように述べています。

自発性

児童生徒が、様々なきっかけから社会に役立つ活動を始め、活動を通してその意義を深く認識し活動を続けることも考えられることから、学校教育においては、「自発性は、活動の要件ではなく活動の成果」としてとらえることもできます。

無償性

活動にともなう交通費や保険料、必要な物品に係る経費など一定の社会的なコストを要することから、このコストをどのように分担するかについては、個々の事例により判断が必要です。

日常性

誰でも日常的に参加できる活動であり、活動に楽しさなどを見出せるよう工夫する必要があります。

3 社会奉仕体験活動等の重要性について

(1) 豊かな体験活動の推進の重要性

平成13年7月、学校教育法等の改正が行われ、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校において、教育目標の達成に資するよう、教育指導を行うに当たり、児童生徒の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとするのが規定されました。



また、平成14年7月には、中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」が取りまとめられ、青少年の時期には、学校内外における奉仕活動・体験活動を推進するなど、多様な体験活動の機会を充実し、

豊かな人間性や社会性等を培っていくことが必要であるとして、学校、家庭、地域が連携・協力して、社会的な仕組みづくりなどを行うべきであるとの提言がなされました。

さらに、学習指導要領においても、「生きる力」の育成を目指す観点から各教科等を通じて体験活動を重視するとともに、体験活動を重要な活動の一つとする「総合的な学習の時間」を創設しています。このように、各学校において、社会奉仕体験活動など様々な体験活動の推進に取り組むことは極めて重要です。

(2) 社会奉仕体験活動など体験活動の有効性

社会奉仕体験活動など体験活動の有効性については、図1に示す文部科学省「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」(平成17年度調査)によると、「道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりする」や「小さい子どもを背負ったり遊んであげる」などの生活体験が豊富な子どもほど、他者を思いやる心や規範意識などの道徳観や正義感が身に付いている傾向があるとの調査結果があります。

近隣の駅や通学路、公園等の清掃活動やお年寄りやと係わる体験などの社会奉仕体験活動を行うことによって、相手のことを考えた行動やルールを守る気持ちを育むことができます。

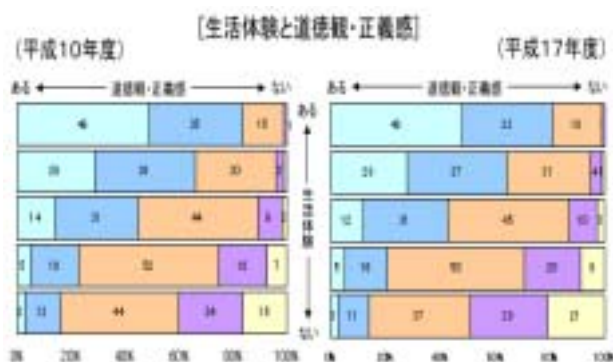


図1 「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」(平成17年度調査)

(3) 社会奉仕体験活動が育てる力

社会奉仕体験活動は、発達段階に応じたねらいを明確にし、学校と地域、関係機関等が一体となって、主に次の三つの力を育むよう計画することが大切です。

思いやりなどの豊かな人間性
 社会生活上のルールの習得などの社会性
 自ら考え、判断し、行動できる力 など

児童生徒は、これらの力を身に付けることによって、社会の一員としての自覚を深め、他者

や社会のために、何をすることができるのかを自ら考え、行動できるようになります。

4 社会奉仕体験活動の充実のために

社会奉仕体験活動は、学校の教育方針のもと、児童生徒に身に付けさせたい力などのねらいを明確にし、教育計画に適切に位置づけ、地域や関係機関等と連携し、適切な役割分担などを図りながら実施することが大切です。

(1) 学校としての体制づくり

各学校においては、校長のリーダーシップのもと、全教職員が協力して、社会奉仕体験活動などの推進を図る体制の確立が重要です。

そのためには、地域の協力を得るとともに、関係機関との継続的な連携関係を促進し、学校の活動に幅広い支援が得られるよう、保護者、地域、関係機関等によるサポート・グループなどを設けることが求められます。

(2) 教職員の意識・能力の向上

教職員一人一人が、社会奉仕体験活動の意義や理念を正しく理解し、自信をもって指導に当たることができるよう、指導力の向上に努めることが重要です。

そのためには、ボランティア活動などの社会奉仕体験活動に係る校内研修等を実施することが求められます。

(3) 活動実施の上の留意点

ア 教育活動全体を通じた体験活動の充実

発達段階に応じた適切な活動の機会が提供されるよう、活動のねらいを明確にし、教育活動全体を通じた取組みとすることが大切です。そのためには、

学校行事等の特別活動、総合的な学習の時間をはじめ教科等の学習指導及び部活動等の課外活動など教育活動において適切な位置づけを行うこと。

小中高等学校及び特別支援学校におけるそれぞれの取組みに継続性をもたせ、発達段階に応じた活動の内容や期間などを工夫すること。

各教科などにおける学習指導との関連を図ること。

などが求められます。

また、長期休業期間中は、体験活動を実施しやすい時期でもあり、児童生徒が任意で参加する活動などを計画、実施するとともに、様々な活動の機会について情報提供を行うなど、体験活動の充実に努めることが大切です。

イ 興味・関心を引き出し、自発性を高める工夫
児童生徒の興味・関心を引き出し、自発性を
育てる工夫として、

発達段階や活動の内容に応じ、活動の企画
段階から、児童生徒を参加させる。

児童生徒が選択できるよう多様な活動の場
を提供する。

ことなどがあります。

ウ 事前指導・事後指導

実施前に、活動のねらいや意義を児童生徒に
十分理解させ、児童生徒が取り組む活動につい
て、あらかじめ調べさせたり、準備を行うこと
を通して、活動への意欲を高めるとともに、活
動後は、感じたことや、気づいたことを振り返
らせ、まとめたり発表したりする機会を設定す
ることが重要です。

エ 活動の円滑な実施のための配慮

活動の円滑な実施にあたっては、体験活動を
効果的かつ安全に行うために必要な知識・技能
やマナー等の習得をねらいとした事前指導が
必要です。

また、活動内容によっては、受入れ人数の適
正化や受入れ先との連絡調整など企画段階で
の配慮とともに、活動を実施する際の留意点や
活動を支援するボランティアなどの参加の受
入れなどにも、十分な配慮が必要です。

オ 危機管理体制の充実

体験活動などを実施するにあたっては、児童
生徒の安全を最優先に考え、危機管理体制を確
立しておく必要があります。

緊急時への対応として、緊急対応マニュアル
の作成、関係機関との事前連絡、緊急時の連絡
リストの作成、保険の利用などを行うことも大
切です。

また、児童生徒へ事故防止の指導や事故への
対応方法などの指導も必要です。

5 おわりに

本県では、平成14年度から、県立高等学校を
20校程度指定し、生徒指導上の諸問題、とりわ
け中途退学の減少に焦点化した「社会奉仕・自然
体験活動等推進事業」を実施しています。その取
組みの主なものを次に示します。

ボランティア活動など社会奉仕に係る体験活動

学校周辺、駅周辺、通学路等の清掃活動
「花いっぱい運動」により、通学路等にプラン
ターを設置する環境美化活動
工業の技術を活かした地域貢献活動

交流に係る体験活動

地域のまつりに参加する地域住民との交
流活動
保育所実習による園児とのふれあい活動
高齢者とのふれあい交流活動
小学生対象の「木工教室」「陶芸教室」
による交流活動
地域住民を招いてのパソコン教室

職場や就業に係る体験活動

インターンシップによる就業体験活動
生徒の進路希望に沿った地域事業所等
での体験活動

文化や芸術に係る体験活動

地域特産のこんにゃくづくりを通じた地
域住民との交流活動
地域の伝統芸能である和太鼓を各地のイ
ベントで披露する活動
留学生との文化交流活動

勤労生産に係る体験活動

農家の指導を受け、果物や野菜、花をつく
る体験活動

自然に係わる体験活動

カッター、カヌー、ウィンドサーフィン等
の海洋スポーツ体験活動
トレッキング、オリエンテーリング、レク
レーション等の自然体験活動

暴力行為やいじめなどの問題行動への対応に
当たっては、児童生徒の間違った行為に対し、毅
然とした指導を行うことが大切です。その指導の
中で、「何が間違った行為なのか」、「誰に迷惑を
かけたのか」などを人としての生き方、在り方を
もとに心に響く指導を行うとともに、日頃から問
題行動等を未然に防止するために、他者への思い
やりや規範意識を育むよう取り組むことが大切
です。

社会奉仕体験活動は、「誰かのために、したい
こと・できること」であり、見返りを期待しない
体験です。他者のために自らが汗を流し、自らが
体験する中で、豊かな心が育まれるとともに、教
職員が、ともに活動する姿や地域の方々の真剣な
姿に、自らを重ね合わせ、自分自身の生きる方向
を自らが決定することができます。

よって、社会奉仕体験活動は、心を育てる重要
な取り組みであるといえます。

【参考文献】

文部科学省 中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推
進方策等について」平成14年7月
文部科学省 「体験活動事例集-豊かな体験活動の推進のために-」
平成14年10月
文部科学省 やってみよう!誰かのためにしたいこと・できること~
奉仕活動・体験活動の推進~平成14年6月

広島県立松永高等学校

校内外清掃活動

1 ねらい

- ア 豊かな人間性（感謝の気持ち）の育成
- イ 社会性・規範意識の育成
- ウ 生徒会や委員会活動等自主的活動の発展・充実

2 活動場所、学年、回数等

- 場 所：学校周辺，通学路，ＪＲ松永駅北口・南口
- 対象学年：全学年
- 回 数：年間２回（６月・１２月）

3 活動内容

保健美化委員が教職員等と連携し企画や準備を行うとともに、生徒、教職員、保護者、同窓会、地域住民が参加し、ＪＲ駅周辺などに投げ捨てられているペットボトルやゴミ等の回収を行った。

4 成果と課題

- 【成果】・ゴミを散乱させる生徒や日常の掃除を怠ける生徒が減少した。
- ・地域の方々などの参加者と交流が深まり、学校への信頼感が増した。
- ・生徒が、進んで行事に取り組むなど主体性が育成された。
- 【課題】・実施場所，実施回数等を検討する必要がある。



広島県立総合技術高等学校

校外清掃活動

1 ねらい

- ア 地域とのふれあい
- イ 通学路の安全確保
- ウ 社会性・規範意識の醸成

2 活動場所、学年、回数等

- 場 所：学校周辺，通学路，ＪＲ本郷駅，なかよし公園
- 対象学年：全学年
- 回 数：年間３回（６月，１０月ただし１０月は２回実施）

3 活動内容

学年別にＬＨＲの時間を活用し、活動内容、活動区域を各クラスで分担し、学校周辺、通学路、ＪＲ駅周辺、公園などの除草作業やゴミ・空き缶拾いなどの清掃活動を実施した。

4 成果と課題

- 【成果】・通学路の除草を行い、道路の安全を確保することができた。
- ・活動中に地域住民と挨拶を交すなど、交流を深めることができた。
- ・地域から感謝されるなど、生徒が自己有用感をもち、社会へ貢献する心と規範意識が高まった。
- 【課題】・実施時期，実施回数等を検討する必要がある。



広島県立広島工業高等学校

テクノボランティア

1 ねらい

- ア 地域交流及び教育内容の実践
- イ 社会貢献による社会の一員としての自覚の促進
- ウ 勤労観や職業観の育成

2 活動場所、学年、回数等

- 場 所：区内
- 対象学年：全学年
- 回 数：年間，平日 16:00～18:00

3 活動内容

テクノボランティアでは、近隣の学校施設・設備の修理等、高齢者宅における車椅子のメンテナンス、家電製品の修理等、保育園の遊具製作、おもちゃの修理等を行っている。各クラスのボランティア委員が、その場で修理を行ったり、学校へ持ち帰り、各学科の生徒が実習の時間に修理等を行ったりした。

4 成果と課題

- 【成果】・高齢者から感謝され、自己有用感を味わうことができた。
- ・学んだ技術を生かし社会貢献することで、勤労観や職業観を育てることができた。
- 【課題】・日程調整等，計画を立てて実践することが必要である。



広島県立賀茂北高等学校

社会福祉施設における交流

1 ねらい

- ア 社会福祉への理解と関心を深める。
- イ 社会奉仕と地域連帯の精神を養う。
- ウ 思いやりのある心を育てる。

2 活動場所、学年、回数等

- 場 所： 特別養護老人ホーム
- 対象学年： 1, 2年生及び福祉類型の生徒
- 回 数： 年間2回(7月, 12月)

3 活動内容

特別養護老人ホームにおいて、一緒にリースづくりを行ったり、「納涼祭」の手伝いなどを行ったりした。

4 成果と課題

- 【成果】・他人を思いやる心を育てることができた。
 - ・「社会や地域のために、自分の力で何かできることはないか」などを考えるきっかけとなった。
- 【課題】・全校生徒に呼びかけて、実施する必要がある。
 - ・ボランティア活動に生徒が参加しやすい環境づくりを進める必要がある。



広島県立大崎海星高等学校

校外清掃活動

1 ねらい

- ア 社会の一員としての自覚を深め、社会に貢献できる人材を育成する。
- イ 人から感謝される喜びを体験し、将来の生き方を考える。

2 活動場所、学年、回数等

- 場 所： 港周辺及び棧橋、学校周辺の河川、溝、道路
- 対象学年： 全学年
- 回 数： 校外清掃活動年3回(6月, 10月, 2月), 港ボランティア活動年1回(9月)

3 活動内容

・校外清掃活動では、全学年が一斉に、学校周辺の河川や溝のゴミを拾う等の活動を実施した。

4 成果と課題

- 【成果】・生徒が地域の方々とふれあう良い機会となっている。
 - ・地域の方から感謝されることによって、生徒が地域に育てられていると実感し、地域の一員であるという自覚を深めた。
- 【課題】・清掃活動だけでなく、地域の行事や活動に参加するなど、地域に貢献する機会を増やす必要がある。



広島県立黒瀬高等学校

社会福祉施設実習

1 ねらい

- ア 豊かな心の育成を図る。
- イ 地域から信頼される学校づくりの推進を図る。
- ウ 福祉・保育等の技術の取得及び思いやりの心の育成を図る。

2 活動場所、学年、回数等

- 場 所： 学校、介護老人福祉施設、リハビリテーションセンター
保健福祉センター、保育所
- 対象学年： 全学年
- 回 数： 年間を通して実施(複数回)

3 活動内容

福祉祭への参加や老人クラブの高齢者との交流、老人福祉施設やリハビリテーションセンターでの体験実習などを行った。

4 成果と課題

- 【成果】・他者に対する思いやりの心や社会性の育成を図ることができた。
 - ・利用者との交流を通して、信頼関係を深めることができた。
 - ・地域との積極的な交流により、地域に根ざした活動ができた。
- 【課題】・今後も引き続き、様々な体験活動に生徒が参加する機会を提供する必要がある。



広島県立豊田高等学校

校内外清掃活動

1 ねらい

- ア 思いやりの心や社会性の育成を図る。
- イ 社会の一員として自覚を深め、将来、地域社会で活躍するために必要な資質や態度を育成する。
- ウ 地域から信頼される学校づくりの推進を図る。

2 活動場所、学年、回数等

場 所：JR 風早駅及びその周辺

対象学年：全学年、生徒会

実 施：通年 火曜日（放課後の掃除の時間全生徒の当番による）、水曜日（生徒会による）

3 活動内容

毎週火曜日の放課後掃除の時間に、すべてのクラスがローテーションで、JR 風早駅及び通学路清掃を行うとともに、毎週水曜日には、生徒会執行部の生徒が駅及びその周辺の清掃を実施した。

4 成果と課題

【成果】・地域の方々も利用する駅を清掃することにより、人のために役立つことの喜びや環境を整える意識が高まった。

・地域の方々とのふれあう場面が多いことから、挨拶などを進んで行うことができるようになった。

【課題】・他の清掃ボランティア活動との連携を行う。



広島県立大竹高等学校

花いっぱい運動

1 ねらい

ア 園芸活動を通して思いやりの心の育成を図る。

イ 社会性や規範意識を育む。

ウ 地域から信頼される学校づくりの推進を図る。

2 活動場所、学年、回数等

場 所：学校内、通学路、JR 大竹駅周辺、商店街

対象学年：全学年

回 数：年間を通して実施

3 活動内容

地域の方々や地元の小学生とともに、クラインガルテン交流、ピオトープ整備を行った。また、緑化活動として、ヒマワリ、コスモス、パンジーなどを育て、通学路や商店街にプランターを設置し管理を行った。

4 成果と課題

【成果】・地域の人から喜ばれ、充実感や達成感を味わうことができた。

・参加者との交流が深まるなど、学校への信頼感につながった。

・花を大切に育てることを通じて思いやりの心が醸成された。

【課題】・作業の効率化、省力化ができるよう内容を工夫する必要がある。



広島県立宮島工業高等学校

校内外清掃活動

1 ねらい

ア 地域貢献活動を通じて、社会奉仕の心を育む。

イ 地域とともに、清掃活動等に取り組むことによって、社会の一員としての自覚を高める。

2 活動場所、学年、回数等

場 所：物見一号公園及び通学路等校内外周辺

対象学年：公園：全学年からの希望者約 150 名及び生徒会

校内外周辺：全学年、生徒会及び環境整備委員約 50 名

実 施：公園：年間 1 回 放課後

校内外周辺：年間 1 回（全校生徒）、学期 1 回（生徒会及び環境整備委員）

3 活動内容

・生徒会が全校生徒に呼びかけ、自主的に参加をした約 150 名が、学校近隣の公園の清掃活動を地域とともに行った。

・駅や通学路及び学校周辺の清掃活動では、全校生徒による年 1 回の活動とともに、学期に 1 回生徒会及び環境整備委員約 50 名が活動を行った。

4 成果と課題

【成果】・奉仕活動に多くの生徒が自主的に参加するなど、地域に貢献する意欲が高まった。

・地域とのふれあいを通して、挨拶やマナーなどの向上が図られた。

【課題】・生徒一人一人が、どのように地域へ貢献するのかを自ら考え実行する力を育む必要がある。

